



チョウザメ

分類 チョウザメ目 チョウザメ科  
学名 *Acipenser medirostris*  
英名 Sturgeon

チョウザメの卵からつくられたキャビアはトリフ(黒茸)、フォアグラ(雁の肝臓)とともに世界の三大珍味と呼ばれ食通の垂涎的である。キャビアはチョウザメの卵を卵巣から注意深くとりだし粒を揃えて、冷水で処理し圧力をかけて水分をやや除去し、上等の塩を3~4%ふりかけ塩蔵としたもので、ソ連及イラン産のものが高級品として取引される。デンマーク及ドイツ産のものうちの一部には、ダンゴウオ(*Lethostomus*属)の卵巣からイミティションのキャビアを世界各国に輸出しているが、ラベルを注意してみるとダンゴウオの英名のランプフィッシュ(*Lumpfish*)として記載され、チョウザメの絵も文字もかかれていないので、キャビアであると信じて購入する消費者の責任であるかもしれない。又日本産のものではタラ、ニシンの卵を適当に処理してキャビアと称し販売されているものもある。キャビアと言へば艶のある濃黒紫色と思われがちであるが、エンペラーキャビア別名ゴールドンキャビアと称し鮮やかな黄金色のものがあり中近東特にイランでは一部の特権階級が独占し、イランの皇帝より日本の皇太子殿下へ贈呈されたことがある。

チョウザメは卵巣がキャビアとして利用されるばかりか、肉は刺身、ステーキ、燻製、塩蔵、干製品として美味であるので、世界各地で乱獲され主産地であるカスピ海や黒海では、水位の低下や工業排水による汚染で産卵場の荒廃がおびただしく、人工的増殖の増進と公害規制とにより資源の維持と世界的名声のある輸出品としての生産増強に力を注いでいる。

チョウザメは古生代の遺物的な魚類として厳しい氷河期や地殻の変動にも耐えぬいてきたもので、口は腹面にひらき噴水孔があるなど原始魚類の形態をのこしており、尾鰭はサメ型であるがサメ類とは全くその系統を異

にする。体側には鱗板が散在し、この鱗板が昆虫の蝶に似ているのでチョウザメの名の由来するところらしい。漢字では鱈魚の字をあてる。

北半球の寒冷なる地域に分布し、南半球には全く分布しない。古代魚の特性としてチョウザメもまた河川で産卵して海へ降下し、そこで成長して産卵のため溯上する。或る種の場合は湖で成長して産卵のため川へ降下するものもある。同一種で冬型と春型とがあって、冬型の場合は夏から秋にかけて未成熟のまま川に入りそのまま川口付近で越冬し、夏になると中流域へと溯上して産卵する。

他方春型は春まだ浅き5月中頃成熟した状態で川にのぼり5月頃川口付近で産卵が行われる。この様に同一の河川で両型が存在することは水温やその他の気象要因が一時的に大きく変動しても種族の保全につながり、古生代より今日迄延々と生きぬいた一因ともなっている。古い魚類図鑑によるとチョウザメの日本での分布は本州北部から北海道にかけて生息し、石狩川、天塩川では4~5月頃群をなして溯上する。と記載されているが昭和10年位迄は年間相当数がサケ・マスとの定置網及び引網で漁獲されたが、その後ぱったり獲れなくなり今は昔の物語りである。

チョウザメはその姿体より相像出来ないほど、のんびりとした魚類で入網したものでもあばれる訳でもなく泰然自若としていて人を襲うこともない。口の近くにある4本のヒゲで泥底をあさり小動物を捕食するが、1口食べては止め、又1口食べるというように遊び半分の方で他の魚類に餌をとられてしまいそうである。

カスピ海に分布するオオチョウザメ(*Huso huso*)は全長8.5m、体重1,300kgのものが記録されている。

チョウザメ

分類: チョウザメ目 チョウザメ科  
学名: *Acipenser medirostris*  
英名: Sturgeon

北半球北部海域特にソ連及トルコに最も多く分布する、海産魚であるが産卵のために溯河する。サメの名が冠せられているが、冷水性の硬骨魚類でサメには見られない鰓蓋及浮袋がある。体側面には菱形の大きな鱗が五列に並んで本属の大きな特徴となっている。体長3~4mで歯のない口の前端には4本のヒゲがあり索餌に活用される。食餌は海底の二枚貝、甲殻類小魚等である。世界的な珍味としてのキャビアはチョウザメの卵である。分布域により次のような種類がある。

オオチョウザメ	ソ連	<i>Huso huso</i>
コチョウザメ	ソ連	<i>Acipenser ruthenus</i>
バルチックチョウザメ	北東大西洋	<i>A. sturio</i>
シベリアチョウザメ	北西大西洋	<i>A. baeri</i>



オオチョウザメ  
ルーマニア -1960



バルチックチョウザメ  
アルバニア -1964



シベリアチョウザメ  
ソ連 -1966



ロシアチョウザメ  
ルーマニア -1964



オオチョウザメ  
ルーマニア -1964



ホシチョウザメ  
イラン -1954



コチョウザメ  
ルーマニア -1960